

華人経済 経営研究

～彼れを知らず己れを知らざれば戦う毎に必ず殆うし～

華人の物の見方、考
え方

中国文学者の村松暎は、
文革の最中、『毛沢東の焦
慮と孤独』を著わし、中
国について次のように述
べている。

「中国は古来(時によつ
て多少の消長はあつたと
しても)儒教をもつて正
統の思想とし、政治も日
常生活もこれで律せられ
るたてまでやつて来た。
だが政治的に儒教が主張
する徳治政治が行われた
ためしはなく、実際には法
家思想的法治主義によつ
て統治されてきたのであ
り、日常生活においては
道教が圧倒的な支配力を
持っていたのだ。そして

中国本土からアジア地域、そして世界にまで活動範囲を拡大するチャイニーズ。彼らのビジネスに対する考え方や習慣は日本人からすると異質にして独特で、理解しづらいものだといわれている。チャイニーズを総合的に「華人」ととらえ、彼らの多様な伝統文化と長い歴史から導き出された経営思想、心理と行動を体系的に分析し、華人圏や中国への進出に伴う総合的なノウハウを学び合う関西日本香港協会のみなさんの研究成果を紹介する。

まず中国思想を学べし

法家思想や道教のなかに
は儒教と共通するものが
あり、異質の部分は適当
に使い分け、互いに排除
し合うこともなければ違
和感も生まずに、混然と
して共存してきたのであ
る。儒教の看板をかかげ
て法治政治を行うのは当
然のことであり、道教の
習慣にしたがいながら儒
教を説いたとしても虚偽
にはならない」

すなわち日常生活の中
に論語と老子と韓非子と
加えて孫子が、混然とし
かしある種の整合性のな
かに生きているのである。
これは、今日においても
少しも変わらない真実で
ある。

日本と中国：異なる 文明

華人あるいは中国人と
の交わりにおいては、こ
れをわきまえておかな
ければ大きな間違いや
なる一筋縄では説明で

華人・中国人とはいかな
る人たちのなか、翻ってわ
れわれ日本人とは何かと
なると一筋縄では説明で

族が平和裏に共存してき
たわけではない。幾千年
と民族が戦いを重ねて今
日に至つたのであり、「漢
字」の発明により、その
歴史が書き残されている
のである。

勝者と敗者のコンプ
レックスが民意の根底に
今も生きている。日本人
のように水に流す習慣は
ない。敗けたものには「怨
恨」が残る。そして、ま
た何時戦争・紛争が生じ
るか知れない。誠に厳し
い環境の中に暮らしてい
るのである。

今の時代こそ中国古 典の知恵に学ぶ

生きるためには、まず身
の安全と富を確保しなけ
れば安心できない。家族・
血縁が最も大切となる。次
に同じ種族・民族との絆・

交わるときは、「外人」(ワ
イレイン)中国語で「赤の
他人」のこと)としての
交わりから始まる。そこ
にはどんな計略が隠され
ているか知れない。まず
は兵法についての知識が
必要となる。

江戸期の日本人は、こ
れら中国思想を熱心に学
んだ。しかし明治維新と
ともに日本人は和魂洋才
に向きを変え、中国思想
を軽んじた。明治18年「こ
から日本の軍人も『孫子』
を用いなくなったと言
われわれは、まずは『孫子』
『兵法三十六計』に学ぶこ
とから始め、中国思想に
関する知見を広め、「彼れ
を知り、戦わずして勝つ
智慧を会得し、華人圏ビ
ジネスに備えなければな
らない。」

(このシリーズは2カ月に3
回掲載します)



【馬場正修 (ばばまさのぶ)】
関西日本香港協会理事、同協会華人
経済・経営研究部 主任研究員。1972
年関西学院大学経済学部卒。三井物
産出身。繊維貿易畑を歩み、台北・山
東省青島勤務など中華圏に8年在勤。
2003年4月より5年間ジェトロ大阪
本部貿易・投資アドバイザーを務める。
2007年4月(株)貿易人を設立。
現在、ジェトロ神戸・高知・金沢ほか、
香港貿易発展局等の貿易・投資アド
バイザー。大阪商工会議所 中国ビ
ジネス特別委員会 委員、中国経済
経営学会 会員

【日本香港協会全国連合会】
<http://www.jhks.gr.jp/>